

まどか保育園 事業報告書 (令和2年度)

社会福祉法人 まどか保育園

1 当該年度において当保育園へ入所された乳幼児は、年度当初定員80名に対し69名。年度途中で入退所があり、年度末には77名であった。これら乳幼児に対して、それぞれの家庭や地域社会との連携を密にして、国が示す子ども子育て支援法、保育指針、園で策定した保育所運営規程等に基づき策定した保育の計画（理念・方針・指導計画等）に沿った適切な保育を、全職員が協力して実施に当たった。

2 家庭や地域社会との連携について

(1) 園と家族との連携を密にするため、「入園のしおり」「園だより」「保健だより」「給食だより」等を発行して、保育に対する各家庭の理解と協力を求めるとともに、園児の登降園時の送迎等の際にも、さまざまな状況等を密接に連絡し合うよう努めた。

(2) うんどう会、おゆうぎ会、はっぴょう会の行事をとおして保護者に保育活動の状況を公開した。規模・日程を縮小・短縮し、感染症拡大防止対策を講じながら行った。

(3) 園児と地域老人や異年齢児との交流親和を図るための各種行事は、計画はしていたが中止した。

(4) 園児の情操を高め、また、季節感を演出するため、感染症拡大防止対策を講じながら、七夕まつり、縁日、餅つき、豆まき、ひなまつり等の行事を行った。家庭や地域社会へ、ホームページやたより等で情報発信し報告した。

3 保育活動の実践について

保育の計画に沿って、それぞれの園児の発育発達状況に留意し、保育者の愛情と知性と技術とが個々に充分向けられるよう配慮しながら、保育活動を実施した。園児が自発的に取り組めるような環境設定に留意するとともに、音楽的豊かさや運動能力を発達助長する遊びや活動、友達とのつながりを深める遊び、体験学習に基づいた保育をするよう心がけた。

4 給食について

園児の発育発達における重要な部分と位置付け、給食食育の年間計画を立てて進めた。調理では、栄養バランス及び季節感のある給食を目指し、必要な栄養量の確保、旬の食材や行事

食の取り入れ、嗜好を生かす等に配慮した。手作りのおやつも週5回を目標に実施した。食育活動では、園内花壇での夏野菜作りや大根人参作り、畑でさつまいもの苗さしから収穫までの栽培活動、感染症拡大防止対策を講じながら規模を縮小してのカレーやおやつ作り等の調理体験、年長児のプチクッキングをして、食事をいただくまでの過程を学んだ。衛生管理について毎月の検便を全職員が確実に行うとともに、手洗いの励行、事故防止への配慮を行った。特に新型コロナウイルス感染症に関する対応、アレルギー対応、食中毒等の安全対策では園と家庭との連絡を徹底した。

5 職員研修について

可能な範囲で計画的に園内研修を実施した。園外の各種研修会はほとんどが中止となった。リモート研修等あらゆる研修のありかたを検討し、職員の資質向上に努めていく。リモート研修用の機器設備を設定した。

6 保健・安全等その他

(1) 嘱託医に依頼して、園児の健康診断、歯科健診を年各2回実施した。未受診の園児についても後日受診し、全園児について健康状態の把握を行った。

(2) 専門業者に依頼して、園児の尿検査を年2回実施し、全園児について健康状態の把握を行った。

(3) 人吉予防医療センター、公立多良木病院総合健診センター「コスモ」に依頼して、職員の健康診断を実施、労務管理を適切にしっかり行う等、健康安全等に配慮した。

(4) 防災計画、災害対策マニュアル、防災(避難)訓練計画に基づき、毎月防災教育避難訓練を実施した。毎年行う上球磨消防署に依頼しての、火災避難訓練、消火訓練は実施できず、施設立ち入り検査等もなかった。しかし日頃より施設設備の整備をし、担当者による点検も十分行っている。定期的に地震訓練、防犯訓練、台風水害・竜巻突風の避難訓練も行った。

(5) 交通安全指導計画に基づき、交通安全の日(毎月20日)を設け、交通安全指導を実施した。例年園児の登降園時に保護者による「交通安全まどかニコニコクラブ」が街頭指導をしているが、当該年度は中止した。

(5) 保育環境の安全・衛生に留意して、整備や工事、備品取得を行った。

7 その他の保育事業の実施について

障害児保育事業、延長保育事業及び自主事業として一時預かり保育事業を行った。

まどか学童クラブ 事業報告書 (令和2年度)

社会福祉法人 まどか保育園

理念 生かされていることに気づき支えあう
一人ひとり健やかに歩む
興味創造を大きく広く展開できるあそび力を高める

1 当該年度より、放課後児童健全育成事業を始めた。児童へ適切な遊び及び生活の場を与え、その健全な心身の発達をはかることを指導目的とした。福祉の専門性を有し、家庭との緊密な連携の下に、児童の状況、発達過程を踏まえ、保育所における環境をとおして、養護及び教育を一体的に行った。

2 当クラブへの入所児童は、年度当初定員19名に対し13名。年度途中で入退所があり、年度末も13名であった。コロナ禍や豪雨災害により、急な開所や児童受け入れ等も生じ、運営には難しい問題が多々あったが、行政の指導の下、なんとか全支援員で協力し進められた。

児童に対して、各家庭や地域社会との連携を密にして、児童福祉法や園で策定した運営規程等に基づき、適切なクラブ運営を、全支援員が協力して実施した。

3 家庭や地域社会との連携について

「学童クラブのしおり」「学童クラブだより」「保健だより」「給食だより」等を発行して、クラブに対する各家庭の理解と協力を求めるとともに、児童の降園時の迎え等の際にも、さまざまな状況等を密接に連絡し合うよう努めた。

利用者専用ホームページや不特定へのホームページ等をとおして、家庭や地域社会に活動の状況を公開した。

園児との交流親和を図るため園の各種行事に参加した。

4 クラブ活動の実践について

計画に沿って、それぞれの児童の発育発達状況に留意し、支援員の愛情と知性と技術とが個々に充分向けられるよう配慮しながら、クラブ活動を実施した。児童が自発的に取り組めるような環境設定に留意するとともに、学習、音楽的豊かさや運動能力を発達助長する遊びや活動、友達とのつながりを深める遊び、体験学習に基づいた活動をするよう心がけた。なにより児童が日々楽しみに登園し、楽しく活動できたことが何より嬉しいことであった。

5 職員研修について

外部への研修参加は難しくできなかった。

支援員は全員保育経験があり、それをもととして試行錯誤しながら、話し合いや研修を実施し、資質向上に努めた。

園内での防災計画会議や防火対策検討会を実施し、防災や災害に対する知識習得、対処法確認、連携意思統一を行った。

6 保健・安全等その他

防災計画、災害対策マニュアル、保健衛生対策マニュアル、防災(避難)訓練計画に基づき、災害訓練を実施した。児童、支援員の知識、技術、意識向上につながった。

施設環境の安全・衛生に留意して、整備や工事、備品取得を行った。